

## 演題

歯周治療を通して患者のQOLの向上に努める

氏名 村上祥子

## 抄録

健康寿命とは、WHOにより「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されている。超高齢社会の今、いかに長く健康に生活できる期間を保つかという事に、関心が向けられているのではないだろうか。

不自由なく食事が摂れ、食べたいものが食べられる喜びを得ることは、モチベーション維持の一つになり得ると考える。

歯周治療を受けた患者において、メンテナンスやSPTは口腔の健康管理に欠かせない一助である。歯科衛生士の役割として、検査とプロケア、セルフケアの確認による予防システムを実践していく事で、患者が検査による安心感と、クリーニングによる爽快感を得、疾病予防のための情報提供により、充実感を感じられるように努めなければならない。私自身、いつの間にか勤務年数が長くなり、自ずと担当させて頂く患者が多くなるなか経験値も多少は増え、個々の対応の仕方に理解とバリエーションがついてきて、歯周基本治療を行ううえでスキルも向上してきたと思えるようになった。しかし、長期間メンテナンスやSPTに通う患者の、ライフスタイルの変化は様々である。定期的に来院していても、ご家族の介護や入院、転居などにより継続できなくなるケースや、中断により歯周病再発のリスクが高まったケースに直面することもあった。

長期症例を提示するとともに、そこからの学びを交えながらメンテナンスやSPTの大切さについて考察する。

## 略歴

1999年	九州歯科大学附属歯科衛生学院卒業 白石歯科歯周再生クリニック勤務
2011年	日本臨床歯周病学会認定歯科衛生士取得
2021年	日本臨床歯周病学会指導衛生士取得

## 演題

高齢者の観血的歯科治療に際して注意したい全身疾患について

氏名 松村 香織

## 抄録

日本は超高齢社会を迎えており、今後も高齢者の人口割合は増加すると予測されている。高齢者の増加により要介護者の増加が問題視されているが、一方で外来通院のできるADLの自立した高齢者も多く存在する。一見健康で、外来受診ができる高齢者も、加齢によりさまざまな全身疾患に罹患し、その治療薬として複数の薬剤を内服していることがあり、抜歯やインプラント治療をはじめとした観血的歯科治療に際しては注意が必要である。

今まで全身疾患に関連したトラブルを経験していないクリニックでも、今後高齢者の診療頻度が増加すると今までになかったようなトラブルが起こることがある。遭遇する頻度の高い全身疾患については基本的な知識を得ておき、実際に全身疾患をもつ患者さんが来院したときにスムーズに対応できるように日頃から準備しておく必要がある。本講演では、高齢者の初診時対応の流れ、観血的歯科治療の実施にあたって注意したい全身疾患とその対応策について解説したい。

## 略歴

2005年3月 九州大学歯学部卒業

2005年4月 九州大学病院顎口腔外科入局

2011年4月 九州大学大学院歯学研究院修了、博士(歯学)取得

2016年4月 九州大学病院顎口腔外科助教

2018年4月 公立八女総合病院歯科口腔外科医長

2024年4月～現在 公立八女総合病院歯科口腔外科部長

## 所属

日本口腔外科学会専門医、日本口腔科学会指導医、日本小児口腔外科学会指導医

日本有病者歯科医療学会専門医、日本抗加齢医学会専門医、日本老年歯科医学会認定医

日本化学療法学会抗菌化学療法認定歯科医師、日本栄養治療学会認定歯科医師